

## 2月例会「芽吹き・オタマジャクシに出会う探検」報告

平成31年2月17日（日）午前10時～12時、立田山憩いの森「お祭り広場」。参加者98名（会員15名）。熊本市内が「熊本城マラソン」で賑わうなか、青空の広がる立田山に「自然大好きファミリー」が次々とやってきます。あっという間に駐車場が満杯になり、スタッフが別の駐車場を案内するなど、開会時間が10分ほど遅れてしまいました。

いつものようにチビッ子の開会宣言、藤井会長のあいさつで開会した後、3班に分かれてイノシシの食痕や早春の草花などを観察しながら、トンボ池を見渡す高台（茶屋敷跡）に移動。そこでトンボ池の自然環境を確かめながら、紙芝居「立田山のアカガエルのふしぎ探検」を見て、アカガエルの生活史や生息環境などについて学習します。幼児にはちょっと難しい内容でしたが、「オタマジャクシの前足と後ろ足。どちらが先に生えるでしょう」といった質問に真剣に答え、「メスのアカガエルは冬に1回だけ、1個の卵塊（らんかい：約1000個の卵のかたまり）を産卵するので、卵塊を数えると、立田山にアカガエルがどれ位いるのか、およその数がわかります」といった話を熱心に聞いてくれました。

次は、トンボ池のほとりに移動して、白いバットに入ったアカガエルの「新しい卵塊」「古い卵塊」「孵化が始まった卵塊」「オタマジャクシ」を観察。自然観察指導員に「卵塊に触ってごらん」とすすめられ、初めは恐る恐る、やがて大胆に卵塊を手に載せて、「やわらかくてトロトロしている」「卵の中のオタマジャクシが動いた」と興奮気味です。

さあ、はいよいよ、オタマジャクシの卵塊数の調査開始です。

参加者は再び3班に分かれ、指導員から「アカガエル卵塊数調査記録用紙」を受け取り、書き方の説明を聞いた後、班毎にトンボ池のほとりに設けられた「A」「B」「C」の調査区域に向かいます。子ども達も目を凝らして「新しい卵塊」「古い卵塊」「オタマジャクシの群れ」「カエル」を探します。数を数えながら「これは新しい卵だ」「数えきれないほど古い卵がある」「オタマジャクシがいるよ」と親子の会話も弾みます。

調査を終えた子ども達が広場に帰ってきました。班毎に「見つけた卵塊の数」を確認、発表者を決定。1班から順番に「調査結果」を益田指導員に報告します。

益田指導員が集計をする間、藤井会長から「アカガエルが育つためには『水辺』と『森』の両方が必要。立田山のアカガエルを護るためには、トンボ池と周辺の森を護り、生態系を護り、立田山の自然そのものを護ることが大事です」とまとめの言葉を聞きます。

最後に、益田指導員から「3班合計で、トンボ池で見つけた新しい卵75個、古い卵222個、オタマジャクシの群れ15、カエル0匹でした。これまでに確認した産卵数168個に今日の75個を加えると、今年のトンボ池のアカガエルの産卵数は現在243個です。環境省や日本自然保護協会にも報告します」と報告を聞き、大人も子ども達もうれしそう。

参加者の皆さん、調査への協力ありがとうございました。



これは何だろう？（下見時に撮影）



アカガエルの卵塊



オタマジャクシ



ニホンアカガエル（下見時に撮影）